

中海エコ活動レポート



中海・宍道湖一斉清掃

6月8日（日）に、3回目となる『ラムサール条約湿地中海・宍道湖一斉清掃』を行い、安来市ハーモニータウン汐彩で、島根・鳥取両県知事出席のもと、開始式が開催されました。

今回は、中海・宍道湖周辺で、7,844人の地域住民の方々に参加していただき、約16トンのゴミを回収しました。



■地域の住民活動

- NPO法人中海自然再生センター
飯梨川流域部会
～飯梨川河川敷で～
- NPO法人未来守りネットワーク
～アマモの種子採取イベント～
- NPO法人中海再生プロジェクト
～中海体験クルージング～

■中海沿岸市町の取り組み

- 中海の自然環境
～中海を横から見れば～

■これなに？

■研究機関の取り組み

- 島根県保健環境科学研究所
～18年間の斐伊川負荷量の変化
中国大陸からの窒素負荷～

- 鳥取県衛生環境研究所
～中海におけるコアマモの
移植技術の検討～

■イベント情報

■コラム

古代の中海(3)

■アマモ・コアマモってなに？

地域の住民活動のご紹介

自然再生の事業

飯梨川河川敷で

牧草栽培と花の咲く土手や河川敷

【はじめの一步】

いま飯梨川河川敷の赤江地区周辺で自然再生の新しい取り組みが進行中です。活動の中心は中海自然再生協議会飯梨川流域部会(三島 俊夫会長)で赤江地区健康会議や地域住民の方々が参加しています。これは国の定めた「自然再生推進法」に基づいて民・官・学が協働して自然環境を改善しようとするものです。この「飯梨川流域部会」のメンバーとなった私たちは、改めて飯梨川で何ができるかを考え、飯梨川の赤江河川敷、JR山陰線から川下へ150mに親水広場をつくってモデルケースにしようとしたのです。

目的は、人も近づけない雑草の繁茂はカメ虫の温床であったり、枯れて中海に流れへドロの原因になったり、治水にも悪いので、刈り取って草を外に出し、人々が川に親しんだ昔の姿に再生するためです。私たちは河川を管理している島根県広瀬土木事業所に、河川敷の「自然再生」を巡って話し合うため何度か足を運ぶうちに、素人では難しい密生した業平竹の伐採を広瀬土木事業所が行い、あとを住民の力で管理するという事で合意が成り立ち、平成19年3月にはJRの下流150mの竹の伐採をして貰いました。



【みんなの協力で】

私たちは、竹の育ちを阻止するよう、6月まで待って、約20人のボランティアの方たちの協力を得て、また伸びた竹と雑草を刈り取り、地元建設業者さんの殆どボランティアに近いご協力で、できた広場に被土してもらい、小さいながら市民に開かれた「親水広場」が完成したのです。8月にはここを、島根大学との共催で行った「飯梨川全域一斉水質・生態調査」の際のイベント広場として使うことができたのです。なお、これに



は安来市の地域トライアングル事業の支援も受けており、文字通り県・市・民間・大学 協同の事業となったのです。

【牧草・親水公園を】

また、山陰道から上へ1kmの河川敷左岸を牧草地として利用したいという地域酪農家さんの要望を元に、自然再生協議会をサポートするNPO法人「自然再生センター」が水道水の水源地であることを考慮したうえで牧草栽培することを前提に、広瀬土木事業所から「占用」(その人又は団体だけに与える使用権)を認められ、平成20年度には、住民・地域企業・畜産農家の方々の協力の下に、安来市の「地域トライアングル事業」も申請し、この地での牧草栽培を成功させるよう取り組んでいるところです。さらに安来市会議員の土手や河川敷にかつてのようにならし菜のお花畑は再現できないものかという提案にもとづいて、幾人かの地元業者さんに呼びかけたところ「旧国道から9号線までの500mの河川敷の雑草や伸びた竹をボランティアで伐採整備してあげましょう」という話になり、これもトライアングル認定事業の助成を申請し住民の協力と合わせて、市の中心部の土手と河川敷に花を咲かせる事業として中海自然再生協議会の飯梨川流域部会で了承されました。

なお、上記協議会には住民の方々はどなたでも参加し意見を述べたり又活動に参加していただくことができますのでご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■連絡先:

- ・赤江交流センター
- ・NPO法人「自然再生センター」飯梨川流域部会
- ・中海自然再生協議会飯梨川流域部会 事務局
TEL (0854)22-1233
FAX (0854)22-1232
リンケージ内(木村)

文責 美見昭光

アマモ種子採取イベント ～NPO法人未来守りネットワーク～

【子ども達とアマモの種子を集めました】

第4回目になるアマモ採取イベントを6月14日に開催し、子ども達やボランティアの皆さんに参加していただきました。



以前は、境港市西工業団地地先の浅場にてアマモ種子の採取を行っていましたが、今年は外江港の内側に大量のアマモが繁殖しておりましたので、そこで種子採取を行いました。

昨年行ったアマモシートによる増殖の結果は近年に無いほど素晴らしい結果が出ており、我々NPO法人関係者も驚いています。アマモ増殖の原因として考えられるのは、中海水門の解体撤去



により海水流入がよくなり、浅場の環境改善が進行し、アマモ類の増殖に適した環境になったのではと、我々NPO法人関係者は考えています。

又、その際のアマモ場調査でも数多くの魚介類の産卵場、育成場としての役割をアマモ場が果たしており、中海の水質浄化にも寄与していることも再確認でき、大きな意味では地球環境の保護保全を行っていると考えております。

今後もNPO法人未来守りネットワークのメンバーと支援していただけるボランティアの皆さんと一緒に微力ではありますが頑張っていきますので、宜しくお願いいたします。

■NPO法人未来守りネットワーク
理事長 奥森 隆夫
TEL (0859)47-4330

中海と遊ぼう！

中海体験クルージング

～NPO法人中海再生プロジェクト～

今年で7回目を迎えた「中海体験クルージング」。200人以上の参加者、そして150人を越えるボランティアスタッフによって、8月24日に無事に終えることが出来ました。関係者の皆様には心から厚くお礼申し上げます。

【中海を肌で感じてみよう】

このイベントは「中海を湖面から見てみよう、そして中海を肌で感じてみよう」をテーマに2002年に始めました。約10艘のクルーザー・ヨットのオーナーの協力の下、毎年200名近い市民の皆さんに米子湾を中心に「普段見ることの出来ない中海」を肌で感じていただいています。



【中海を勉強しよう】

そして米子港近くの展示会場で開催される「中海環境フェア」では、今年は中海浄化や環境問題に取り組む市民団体・企業・国・県・市など、計16の団体が日頃の取り組みを展示発表、多くの市民に「中海を知る学習の場」として楽しんでいただきました。



中海の湖面から見える風景には言葉を奪われる美しさがあります。しかし、中海の水に眼をやるという言葉が失ってしまう汚さがあります。多くの人は「何とかしたい」という思いと「中海環境フェア」で得た知識を持ってお帰りになれます。

中海の汚れの原因は様々です。しかしその要因は「私たちが中海のことをよく知らなかった」からだと思います。このイベントは来年も行われる予定です。来年もぜひ多くの皆様に「本当の中海」を肌で感じていただければと思います。

■問合せ先：米子市河崎610
(事務局：中海テレビ放送)
TEL (0859)29-2854

沿岸市町の取り組み

松江市

松江市は、中海・宍道湖の沿岸に暮らす子どもたちを対象に、環境問題を身近に捉えてもらい、自然環境の保全・再生に向けた活動につなげることを目的に「自然環境保全学習会」を実施しました。

7月に竹矢小学校の児童57名（5年生）が身近にある中海に生息する生き物を採取調査しました。講師の島根県環境保健公社の戸田顕史氏のもと、児童は中海大橋のたもとの中海に入って様々な生き物を採取し、顕微鏡やルーペなどを使って観察しました。児童の一人は、「中海には、たくさんの生物がいることがわかって、びっくりした。」と話していました。



米子市

こどもエコクラブとは、次の世代を担う子どもたちが主体的に行う環境学習活動を支援することにより、人間と環境の関わりへの理解を深め、環境を大切に思う心を育成することを目的としており、米子市では、7クラブ（メンバー125人、サポーター26人）の参加を得ています。

この内、子ども達の自然へのふれあいが少ないことから、自然体験の機会をつくるため、米子市直営の「メダカみつけ探検」、「YONAGOジャングルエコ探検」、「それ行け中海探検」の3クラブを設置して、積極的にこどもの環境学習を推進しています。

クラブ単位の活動のほか、日野川水生生物調査、ホテル観察学習会等のほか、情報交換・交流の場として交流会等の多様な活動を実施しています。

「それ行け中海探検」では、中海の自然探検や生物調査、中海七珍の試食を通じ、中海の大切さや恵みを体感し、地域の環境を守るために何ができるのかを考え、世代を超えた息の長い環境保全活動を行ってみたいと考えています。



安来市

安来市は、中海圏のほぼ中央に位置し、山・川・平野・海の全てを持つ、自然環境に恵まれた地域です。この豊かな自然環境を守るため、毎年6月・7月に、自治会、事業所、市民団体によるクリーンアップ安来デーを実施し、道路、河川、中海湖岸などの環境美化活動に取り組んでいます。今年度は市民5,091人、234団体の参加があり、約5トンのごみを回収しました。



そして、地区協議会、市民団体などが実施している河川清掃活動や、企業、ボランティア団体が参加している中海アダプトプログラムの中海湖岸のゴミ回収にも協力し、EM水質浄化、下水路清掃対策と併せた水環境改善への取り組みを行なっています。

また、毎年秋には中海を冠名にした「なかうみマラソン全国大会」が行われ、遠く大山や島根半島を見渡す中海の絶景を横目に3,000人を超えるランナーが沿岸を走り抜けます。

境港市

中海がラムサール条約に登録され、世界的に重要な湿地として認められました。

この自然環境を守り共生を図りながら賢明に利用し、後世に伝えていくことが期待されていますが、中海に流入する汚濁負荷量は、減少しているものの依然として、環境基準を上回っている地点があります。

本市の「中海」に対する取り組みとしては、下水道の整備を基本としつつ生活廃水処理施設の整備や、家庭排水対策の普及啓発活動を進め、また、ボランティアによる、湖岸の定期的な清掃等を引き続き実施をし、一層の水質改善を図って行きたいと考えております。

市民と行政が役割を分担して協働して取り組み、中海の水質浄化が進み、漁業の宝庫として、また、観光資源や市民の憩いの場として豊かな「中海」が復活することを願っています。



東出雲町

ご存じですか？東出雲町下意東にはその昔白鳥海岸と呼ばれた中海に面したバードウォッチングができる海岸（意東海岸）があります。かなたに大山も望める場所でもありますが、水質の悪化に伴い餌となる藻が減少しハクチョウの姿は見られなくなりましたが、冬になるとオナガガモやマガモなどをはじめたくさんの鳥類が飛来します。

その意東海岸では、毎年、中海・宍道湖のラムサール条約登録を記念して、条約の趣旨である環境保全と賢明な利用（ワイズユース）についての意識の高揚を図る目的で一斉清掃を行っています。

今年も6月に近隣住民と町内ボランティアの皆さん、町職員が一緒になってゴミ拾いや草刈りなどの清掃活動を行いました。現在、意東海岸では水質改善を目的とした環境工事が進んでおり、水質浄化に効果の高いコアモの藻場を形成させる計画です。

鳥達にとって過ごしやすい環境を守るためにも今後も環境保全に努めていきたいと考えています。



地中海の自然環境 ～中海を横から見れば～

中海は、島根県と鳥取県にまたがる全国第5位の広さを有する天然湖で、大山隠岐国立公園と隣接して雄大な景観をつくりだしています。境水道を介して日本海と繋がっていますので湖は海水が混じり合う汽水湖になっています。

皆さんは中海を陸の上（あるいは湖の上）から見ることはあると思います。それでは中海を横から見るとどんな構造になっていると思いますか？

今回は中海を横から見た構造についてご紹介したいと思います。

陸の上から見た中海（大根島(波入)から中海・大山を望む）



図1は宍道湖・中海を横から見た地形を簡略化したものです。

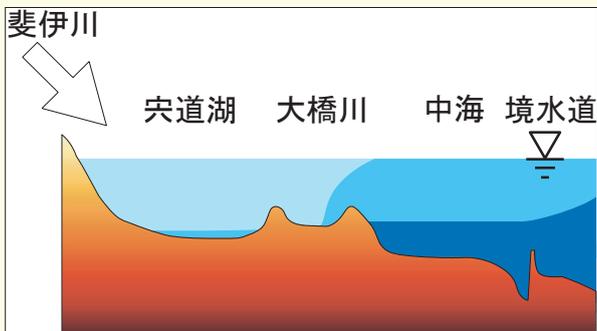


図1 宍道湖・中海断面図

上流の斐伊川から大量の淡水が宍道湖に流れ込み、大橋川、中海を通過して日本海へ流れていきます。

一方で日本海からは潮の干満等により海水が境水道を通過して中海の方へ入ってきます。入ってくる海水は淡水より重いので中海の底の方へ広がっていきます。宍道湖から流れてくる水や、中海へ流入する河川水は海水に比べ塩分が低いので中海の上層に広がります。

この結果、中海では塩分の低い上層と塩分の高い下層の二層構造が形成されて、容易に上下層が混じり合うことはありません。

この為、下層水には空気中からの酸素の供給が十分行われず、湖底の微生物等の活動が活発になる夏期には下層の酸素を消費し、貧酸素化が起こります。

図2に水深と塩分濃度、溶存酸素量の関係のイメージを示します。

塩分の低い表層では酸素も十分にありますが、湖底へ向かい塩分濃度が上昇すると溶存酸素量は急激に低下し、湖底付近ではほとんど酸素のない状態になります。

貧酸素化は中海に生息する生物たちに影響を及ぼすだけでなく、湖底から窒素やリンの溶出が起こり、中海の水質にも影響を与えていると考えられています。

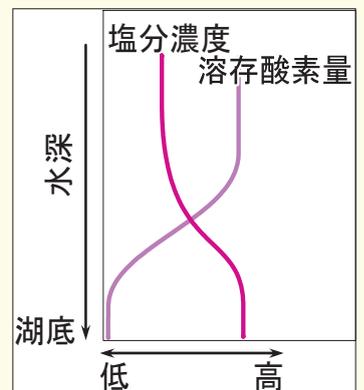


図2 水深と塩分、溶存酸素

このように、普段何気なく見ている中海ですが、横から眺めてみると、上層と下層では全く違った世界が広がっていると言えるのではないのでしょうか。

これなに？



どこかで見たことのあるこの「イラスト」。皆さん、何かわかりますか。

このイラストは、平成17年にラムサール条約湿地に登録された中海・宍道湖を象徴するシンボルマークであり、平成18年に鳥取・島根両県合同で募集し、全国から応募のあった651点の中から決定したシンボルマークです。

パンフレットなどに活用しており、今後もみなさまの目に触れるかたちで活用していく予定です。

なお、このマークの詳しい情報をお知りになりたい方は、下記アドレスを御覧ください。

<http://www.pref.shimane.lg.jp/environment/nature/shizen/ramsar/kettei.html>

18年間の斐伊川負荷量の変化 — 中国大陸からの窒素負荷 —

島根県保健環境研究所

1. はじめに

中海及び宍道湖では湖沼水質保全特別措置法に基づき、それぞれの湖で「湖沼水質保全計画」が策定されており、様々な施策がとられています。しかし、両湖の水質は必ずしも改善されているとは言えません。なぜ水質は改善されないのでしょうか？湖に流入してくる汚濁負荷量は実際どうなっているのでしょうか？そのことを知るため、私たちは宍道湖・中海流域で最も大きな集水域を持つ斐伊川において詳しい水質調査を行いました。

2. 方法

斐伊川の集水域面積は宍道湖流域の約70%、宍道湖・中海全流域では約45%を占めており、宍道湖・中海の水質に大きな影響を与えています。負荷量ができる限り正確に把握するには、なるべく頻繁な採水が必要となります。特にリンは出水に伴い大きな負荷が発生するので、毎日採水するのがいいと考えられています。1983年7月から1984年6月まで日曜祝日を除くほぼ毎日、神立橋において採水を行いました。それから18

年後の2001年9月から2002年8月まで、同じ地点で同様に調査を行いました。調査項目は全窒素(T-N)、全リン(T-P)、流量などです。

3. 結果

1983年7月から1984年6月までの1年間の流量は14.1億 m^3 、2001年9月から2002年8月までの1年間の流量は14.3億 m^3 とほぼ同じでした。なお、1983年度から2002年度までの年間平均流量は13.7億 m^3 であり、調査を行った2回はほぼ平均的な年であったと考えられます。2回の調査結果から計算された負荷量は、T-Nが857トンから922トンへ上昇し、T-Pが95.6トンから62.4トンへ減少していました。T-Pはかなり減少しており、施策どおり削減が図られたと思われる。しかしT-Nは上昇していました。流域の浄化対策で最も効果的なのは家庭排水を集合処理(下水道、農集等)することですが、これは徐々にですが普及率は年々上昇しています。この流域では、集合処理に高度処理型の活性汚泥法などが多く用いられており、リンと同時に窒素も除去されるので、T-N濃度が増加した原因は何かほかにあると考えられました。図1に松江に降る雨のT-N濃度の経年変化を示します。測定値の分布はT-N濃度が上昇傾向にあることを示しています。夏季(7~9月)のT-N濃度はほぼ横ばいで推移し、冬季(1~3

中海におけるコアマモの移植技術の検討

鳥取県衛生環境研究所

鳥取県衛生環境研究所が取り組んでいる研究について紹介します。

アマモ類は、水の汚れのもと(窒素・りん)を吸い取ったり、魚介類の住み家となるなど多くの機能が認識されています。近年では熱心な再生活動が全国的に行われるようになり、中海でも、住民活動によるアマモ再生活動が始まり、成功事例が見られています。

一方、コアマモに関しては再生活動が全くと言ってよいほど進んでいません。これはコアマモに関して、どうしたら再生できるかという情報がアマモに比べて著しく少ないことに起因します。

汽水湖(海水の混じる湖)である中海の塩分は、大きく変化します。アマモが高塩分の維持される海に近い水域だけに生育するのにに対し、コアマモは塩分変動の大きい中海全体の広い水域に分布することが可能です。したがって、中海全体でアマモ類の再生を目指すには、コアマモの再生が不可欠となります。これらの点を考慮し、中海のコアマモ再生に向かう技術的検討を目的として研究を行っています。

1 目的

アマモ類の再生事業では「種まき」と「株の移植」が状況に応じて使い分けされます。しかし、一般にコアマモは種をあまりつけません。また、種もあまり芽をだしません。そこで本研究は「株の移植」の技術確立を目的とし、(1)コアマモの分布制限要因(生育を阻害する環境要因)の抽出、(2)これを踏まえた移植適地の選定、(3)移植実験を行いました。

2 方法及び結果

(1) コアマモの分布制限要因の抽出と分析結果

平成16~17年度に当所が行った現地調査の結果を利用し、現在の中海でコアマモの生育を制限する環境要因(水深・流速・塩分など)を統計解析により抽出しました。

これらの要因を分析したところ、光合成に十分な光が供給される浅場であるとともに、波の静かな場所であることがコアマモ生育地の特徴として示されました。

(2) 移植適地の選定

アマモ類の移植の失敗は、主に適地選定の失敗によるところが大きいのと言われております。アマモに関しては適地選定に関する研究が世界的に進み、日本でも選定のためのガイドラインが作られました。しかし、現時点ではコアマモに関する生息適地の選定基準が確立されていません。

そこで国内外の関連情報を参考に、上記の分析結果に基づいて、条件を満たす地点9を移植適地としました(図1)。



図1 平成16年~18年の調査地点
○はコアマモの自生地
□は移植候補地

月)のT-N濃度は夏季に比べて2倍以上高く、しかも上昇傾向にあります。ちなみに宍道湖上層のT-N濃度は約0.5mg/lですので、いかに冬季の雨の濃度が高いかわかりでしょう。T-N濃度に夏季と冬季で大きな差が見られるのは、気圧配置が違いため、冬季は中国大陸からの気塊が到来しやすくなります。中国では年々化石燃料の消費が増大しています。中国大陸で化石燃料の燃焼等で発生した硝酸やアンモニアが斐伊川流域に到来した後、雨に取り込まれて落下し、川のT-N濃度を上昇させている可能性が考えられました。今後は流域内部だけではなく、外部からの「越境負荷」を考慮に入れる必要があると思われました。

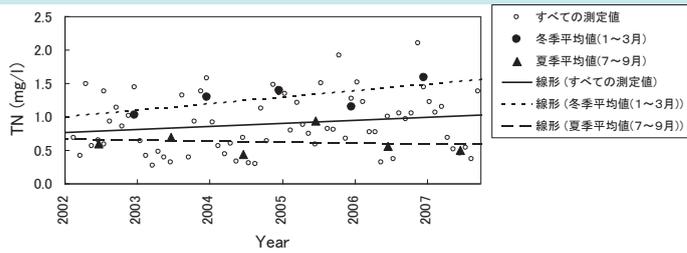


図1 降水中のTN濃度の経年変化

* 図の出典：日本陸水学会第72回大会講演要旨

(3) 移植実験

近年のアマモ場再生は住民主体のものが増えていることから、安価で容易な植栽技術の開発が必要と考え、これらの条件を満たしたコアマモの移植マットを作成しました。

地点Gにて採取した株を波の静かな浅い当所実験水路に移植しました。その14ヶ月後にはコアマモの量は、著しく増えました(図2)。

この水路で増やしたコアマモを用いて平成20年6月から、上記の移植適地で移植実験を開始、現在は経過観察中です。

以上の成果は、マスコミや住民団体等に提供してきました。この働きかけが部分的に実り、住民団体から当所の成果を学童向けの啓発活動やコアマモの植栽に活用したい旨の依頼を受けることができました。このような活動が活発になることを期待しています。

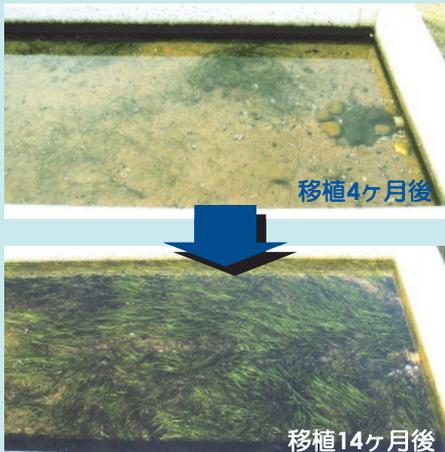


図2 実験水路におけるコアマモの移植実験

月	日	活動予定
10	7(日) ~1/4	フェザーカーピング展 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	11(土)	たくさんの鳥を見よう！(何種類の鳥を観察できるか数えよう！) 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	19(日)	ビーストンボを作ろう！ 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	26(日)	外来種について考えよう 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100
	下旬	アマモ・コアマモ再生イベント(アマモシート作成) 問合せ先 未来守りネットワーク (0859)47-4330
	11	2(日)
8(土)		雁を観よう！ 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
9(日)		ヤマメの人工産卵を体験しよう！ 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100
中旬		中海の自然再生シンポジウム(安来市) 問合せ先 自然再生センター(0852)21-4882
中旬		バスによる“グルット中海”現地見学会 問合せ先 自然再生センター(0852)21-4882
16(日)		フェザーカーピングを作ろう！ 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
23(日)		フェザーカーピングを作ろう！ 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
下旬		白鳥号による中海湖上学習会・中海イラスト・ポスター発表会 問合せ先 自然再生センター(0852)21-4882
下旬		白鳥号による中海湖上セミナー 問合せ先 自然再生センター(0852)21-4882
12		7(日)
	13(土)	トモエガモ観察会 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	23(火)	水鳥の絵を描く会 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
1	1(木)	初日の出！コハクチョウ観察会 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	4(日)	水鳥の絵を描く会 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	25(日)	ゴビウス生きもの図鑑をつくってみよう！ 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100
2	2(月) ~27(金)	水鳥公園絵画コンクール展 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	14(土)	タカを探そう！ 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	15(日)	色粘土で湿地の生き物を作ろう！ 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	22(日)	シラウオ博士になろう！ 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100
3	7(土)	コハクチョウの北帰行を見送ろう！ 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	8(日)	壁新聞を作って一年間を振り返ろう！(子どもラムサールクラブ) 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	15(日)	鳥のパズルをつくろう！ 問合せ先 米子水鳥公園 (0859)24-6139
	22(日)	“水”あれこれ 問合せ先 宍道湖自然館ゴビウス (0853)63-7100

毎年海水浴シーズンになると、日本海のサメのことが話題になりますが、古代には中海にもたくさんのサメがいたようです。当時は、弓ヶ浜半島は根元部分がまだ本土と繋がっていなかったため、今よりはずっと外海から入りやすかったに違いありません。

そのサメにまつわる悲しい物語が出雲国風土記の意宇郡条安来郷の中に伝わっています。

「天武天皇の御世に、イマロという役人の娘が安来の浜で遊んでいたときにサメに襲われ連れ去られてしまいました。イマロは浜で怒りに震え地も裂けんばかりに泣き叫んでいましたが、やがて復讐を誓って弓矢を調べ、八百万の神に自分にその機会を与えてくれるように祈りました。すると百あまりのサメが一匹のサメの周りを囲みながらゆっくりと浜の方に泳いでくるではありませんか。イマロはここぞとばかりその真ん中のサメに走り寄って一刀の下に切り殺しました。周りのサメたちが去っていった後でそのサメの腹を断ち割ると、なんと中からわが娘の片脚が出てきのです。怒り狂ったイマロは殺したサメを切り刻んで串に掛けて道端に立てました。」

と、まあ生物保護の観点からは残酷なお話でもあります。

また、中海のサメに関してはこんな伝説も。

「その昔、美保関のコトシロヌシノミコトは、毎晩モロタブネで揖屋（現東出雲町地内）のミソクイヒメところへ通われ、朝一番の鶏の鳴き声を聞いては美保関へ帰られるのが常でありました。ところがある晩のこと、何を間違えたかその鶏が夜明け前に鳴きだしました。ミコトはあわてて船に乗って出発されましたが、急ぐあまり櫂を忘れてしまいました。しかたがないので自分の足で水をかいて進んでおられたところ、突然現れたサメに片足を喰われ大怪我をしまいました。このため、そののち美保関の人々は鶏を忌み嫌い、鶏を飼わないだけでなく、卵も食べなくなりました。」

もうひとつ。斐伊川の上流に鬼の舌振（オニノシタブルイ）という奇岩怪石の名所がありますが、由来に「鬼も舌を震わすほどの激流」という説とは別に、現在の奥出雲町に鎮座していた女神タマヒメノミコトが、中海からサメ（＝ワニ）が自分を慕って（シタブル）遡ってくるのを嫌がり、近寄せないように巨石を投じたもの、という話も伝わっています。

人も見かけが何割とか。精悍さはあっても愛らしいとは言えない姿形のサメは昔から随分と損な役回りをしています。（島根 つぎ）



かたりのおみいまる
語臣猪麻呂像(安来市内)

● アマモ・コアマモってなーに？

今回は中海のアマモ・コアマモのお話です。

現在では、一部の地域しか見られない中海のアマモ場（アマモとコアマモが生えている場所）ですが、かつての中海では、全体で1,200haのアマモ場が存在していたといわれています。

そして、この広大なアマモ場は、中海に流れ込んできた栄養（汚れ）を含んだ水の浄化に大きく貢献していました。

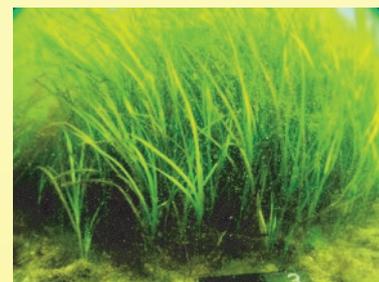
また、数十年前の中海では、近隣の住民達は、大きく成長したアマモ類を刈り取って農業用の肥料として活用したり、塩を作る際に利用してきました。

このように、中海のアマモ類は、海中で生きているときは、水をきれいに浄化し、魚介類の成長の為にゆりかごとしての働きをし、刈り取り後も農作物用

の肥料等になるなど、多岐に渡って、地域の住民達にその恵を与えてきたのです。

そんな中海のアマモ類ですが、海に流れ出した工場や家庭からの排水などによる水質の悪化や干拓事業により、激減しました。（現在では中海全体でも1.5ha程しかアマモ場は確認させていません。）その結果、沿岸域の魚介類が少なくなり、かつては海水浴までできた中海も汚れてしまいました。

このような状況の中、現在は、中海にアマモ類をよみがえらせるべく、住民団体、行政機関、研究機関などが藻場再生や研究活動などを行っています。



編集・発行者

鳥取県西部総合事務所
生活環境局環境・循環推進課
鳥取県米子市栞町一丁目160
電話 (0859)31-9350
E-mail: seibuseikatsukankyo@pref.tottori.jp
Homepage: <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=69208>

島根県環境生活部環境政策課
鳥根県松江市殿町1番地
電話 (0852)22-5562
E-mail: kankyo@pref.shimane.lg.jp
Homepage: <http://www.pref.shimane.lg.jp/kankyo/>

記事募集

中海エコ活動レポートに掲載する記事、イベント情報、写真を募集しています。詳しくは、左記連絡先に連絡していただくか、ホームページをご確認してください。なお、投稿にあたっては出来る限り電子データで投稿をお願いします。